

校舎にある生徒の「力」の紹介（第3回）

～古（いにしえ）から学ぶ～

前号で、孔子の論語に係る生徒の学習成果を紹介しましたが、今回は、同じ国語科の「枕草子」と家庭科の調理実習についてです。

枕草子は、平安時代、清少納言によって書かれた随筆（ずいひつ）です。古代日本の有名な文学作品であり、社会科の学習においても触れます。

さて、清少納言は一条天皇の中宮定子に仕えた人物で、紫式部と並ぶ作家として歴史に名を残しています。清少納言が活躍した時代は、平安時代です。藤原氏が、摂政（せつしょう）や関白（関白）として、天皇の代わりに政治を行っていた時代で、中国の唐（とう）から学ぶために派遣されていた遣唐使（けんとうし）が廃止されて、中国の文化の影響を受けなくなって誕生した国風文化の代表的な作品です

枕草子は、清少納言が、心に感じたこと、思うことを書き綴（つづ）った文学作品です。

有名なところを紹介いたします。

「春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は、夜。月のころは、さらなり。闇もなほ。蛍の多く飛び違いたる、また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも、をかし。雨など降るも、をかし。

秋は、夕暮れ。夕日のさして、山の端いと近うなりたるに、烏の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛び急ぐさへ、あはれなり。まいて、雁（かり）などの列（つら）ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにもあらず。

冬は、つとめて。雪の降りたるは、言うべきにもあらず。霜のいと白きも、またさらでもいと寒

に、火など急ぎおこして、炭持てわたるも、いとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびていけば、火桶けの火も白き灰がちになりて、わろし。」

この、枕草子の中の第42段に、「あてなるもの」という内容があります。枕草子は、その半分以上の章段が、「ものづくし」と言われる「ものシリーズ」です。その中に、「削り氷（ひ）にあまづら入れて・・・」という記述があり、氷を削って、それを食していた様子が描かれています。平安時代の貴族は、削った氷にあまい蜜をかけて食していたことがわかりますが、このような平安時代の文化を第2学年の国語の時間に学習しています。

この国語で学習した平安時代の文化を家庭科の調理実習の時間に再現してみようという取組が行われました。つまり、国語で学習した平安時代の食文化を家庭科の調理実習でつくってみようという学習です。教科の垣根を越えての横断的な学習です。

その調理実習の時間に再現された平安時代の食文化を写真で紹介します。





手に入れた宝物は、しまっておくのではなく、宝物は、磨いてこそその価値は高まる。経験を生かし、次へつなげよう！

長崎市中学校総合体育大会が終了しました。今月8日～10日まで、および、水泳競技が15日～16日に実施されました。県大会への出場を目指して、それぞれの部で、そして、クラブチームで熱戦が展開されました。本校からは、陸上競技と卓球競技個人、水泳競技が県大会に出場いたします。柔道競技は、団体準優勝でした。個人戦でも2位を獲得しています。

この中総体に向けて頑張ったこと、そして、大会当日に必死に勝利を目指して力を発揮したこと、仲間の応援・サポートを頑張ったことなどは、かけがえのない経験であり、今後の人生の中で生かされる宝物になると思います。応援をいただいた方、支えていただいた方に感謝の気持ちをいつまでも持ち続け、今後の自分づくりに生かしてください。宝物は、磨いてこそ光輝くのです。

大会当日応援いただいた保護者の皆様、地域の皆様、指導していただいたコーチの皆様、顧問の先生、すべての人に感謝申し上げます。ありがとうございました。

前号で紹介できなかったカウントダウンカレンダーを紹介します。



心温まるカウントダウンカレンダー。この作品は、入試や試験、受験など様々なところで活躍できそうだなと感じました。描いているのは、スポーツでああ+っても、その絵の中には、「頑張れ！」という気持ちがこもっているから……「ありがとう」です。